



タービン式の小水力発電設備設置予定地
(福祉会館南側黄瀬川へ放流する水路)



杉森 賢二 議員

Q 学習の場となるオープンスペース設置の考えは

A 町民ニーズ・先進地の事例などを研究したい

学びの環境改革を

問 タブレットによるICT教育の推進を。

こども育成課長 導入に向けて29年度、中学校に無線LAN環境を整備している。今後導入の効果や課題などを検証した上で、小学校にも無線LAN

N環境を整備し、タブレット端末を導入したICT教育を推進していく。

問 町の資源である太陽光、小水力など自然エネルギーを活用した環境教育への取り組みは。

課長 身近な自然エネルギーへの理解を深めていくことは、環境教育の観点から、

点からも大変重要である。教育部長 現在、町内公今後、学校などに施設の周知と社会科見学の活用を働き掛け、町の資源を生かした環境教育への取り組みを推進する。

問 小中学生が、友達と勉強を教え合ったりするためのスペース設置の計画を。

課長 この講座は、地域に認知症の人への理解を広め、支え手となる人材育成を積極的に行う。また、認知症の人が徘徊した場合、早期発見につながるよう、先進自治体の取り組みを研究する。

Q 町民にやさしいまちづくりを

A 高齢者居場所づくりの推進をはかる

地域福祉の充実

問 生涯現役介護サポーターのサポートポイントは

長寿介護課長 高齢者が地域や介護施設などでボランティア活動を行った場合にポイントを付与する介護支援ボランティア

ポイント制度や、ボランティアなどの支援の担い手に対する研修などを先行して実施している他市町の取り組みを参考に、地域包括ケアシステムの構築と介護人材確保の方策として、情報収集しながら研究する。

問 認知症サポーター養成講座、徘徊高齢者SONETネットワークなどの充実を。

課長 この講座は、地域に認知症の人への理解を広め、支え手となる人材育成を積極的に行う。また、認知症の人が徘徊した場合、早期発見につながるよう、先進自治体の取り組みを研究する。

問 認知症の早期発見・早期治療の対策を。

住民福祉部長 支援が必要な方を早期に把握できるように、地域包括支援センターの強化や、本人や家族が相談しやすい体制を整え、認知症状の重症化を防ぐよう支援する。